愛知県下の窯業遺跡出土資料に関する基礎的調査報告Ⅲ

―猿投窯東山地区出土瓷器の考古学的調査

大西 遼
（愛知県陶磁美術館 学芸員）

はじめに

愛知県は、古墳時代中期に国内屈指の古窯群である猿投山西南麓古窯跡群（以下、猿投窯）が開窯して以降、連綿と窯業生産を展開してきた地域である。日本全国を見ても、愛知県のように古墳時代から現在に至るまで、連綿と生産史を追うことのできる地域はない。

県下の窯業遺跡は、各時代の生産活動の様相を現代に伝えるものであり、当地の窯業史のみならず日本陶磁史の基礎資料として極めて貴重な情報を内包している。考古学的に窯業遺跡の研究を行う上で最も有力な資料は、層位的な情報を得ることのできる発掘調査により出土した資料であることは明らかであり、編年をはじめとした猿投窯の研究もこれらの資料を中心に進められてきた。一方で発掘調査を経ることのなかった分布調査による地表面採集資料（表採資料）は、その生産品目や時期とともに分布論的研究において重要な資料となってきたが、実測図の提示をはじめ、資料の具体的な様相が示されることは少なかったのではないだろうか。こうした資料の様相を具体的に把握した上で、これまでの編年研究・分布論的研究、あるいは技術系譜等に関する研究を踏まえることで、今後の愛知の窯業遺跡研究をより進展させることができると考えている。

以上のような問題意識のもと、拙稿で平成 28～30 年度（2016～2018）に実施した愛知県陶磁美術館所蔵・保管資料を中心とした実測調査を踏まえ、猿投窯東山地区及び尾北窯篠岡地区出土の須恵器・瓷器の概要と、その編年上の位置を報告した（註１）。本稿では、引き続き猿投窯東山地区出土の瓷器（白瓷）について、平成 31 年・令和元（2019）年度に実施した愛知県陶磁美術館保管資料の実測調査成果を踏まえ、概要報告を行う。報告窯跡の位置は図１の通りである。なお本稿では、『愛知県史』（別編　窯業）により示された編年を使用し、各窯の編年的位置付けを行った（註２）。

１．用語と実測図中の表現について

近年瓷器に関する用語をめぐる研究に動きがあるため、ここで触れておきたい。

近年刊行された『愛知県史　別編　窯業１　古代　猿投系』は、猿投窯研究の現時点の到達点がまとめられた愛知県の刊行物である（註３）。当書では、文献史料に現れる「白瓷」の語について、古代においては灰釉陶器のみでなく、無釉陶器を含めた須恵器を除く白色系

硬質の陶器全体を指すものとする解釈がなされ、「白瓷」の語を積極的に用いる方向が示されている（註４）。さらに中世の白色系硬質の無釉陶器についても、「白瓷」の系譜を引く白瓷系の陶器として、「中世白瓷」と呼べるものとする考えが示されている（註５）。

こうした研究動向を受け、古代・中世の陶磁器研究上いずれの用語を用いるべきか、今後各研究者が今一度検討・判断していく必要があろう。筆者としては、系譜を重視できる「白瓷」の呼称を古代・中世通じて使用することは適切だろうと考えている。また、平安末期の渥美窯・湖西窯の山茶椀（碗）に灰釉の施釉が残存しても、現状「灰釉陶器」とは呼称していない用語上の問題があるが、「白瓷」の呼称を用いることで解決が図られる。

ただし、いわゆる山茶椀（碗）以降の製品について、「中世白瓷」の語を用いることについては、語幹に「中世」の語を付けることで時代区分が前提の呼称法となり、地域や時代、やきものの種類によっては齟齬が生まれる可能性も想定される。政治・経済史からの時代区分との関連も検証すべきと考えられ、本稿での使用は保留とし、古代・中世問わずたんに「白瓷」と表記することとする。

さて、本稿で実測図を提示するにあたって、図２に示した表現を用いる。特に底部調整については、通常実測図では表現が難しいため文章や整理表によって説明されるが、複数の実測図を比較検討する際に、視覚的な理解が容易となるよう考慮した。

２．東山 35 号窯（H－35 号窯）出土品（図３）

基本的に灰釉が施釉された白瓷椀、皿類が出土している。1 は椀、2 は深椀、3 ～ 6 は皿、7・8 は輪花皿である。剥落した可能性もあるが、いくつか残存部に灰釉が認められない個体がある。底部は回転糸切痕を残すものがほとんどであるが、一部回転ヘラ削り、回転ナデで仕上げられるものが含まれる。

折戸 53 号窯式～東山 72 号窯式に比定できる。

３．東山１号窯（H－１号窯）出土品（図３）

灰釉が施釉された白瓷椀、皿類が出土している。9・10 は椀、11・12 は皿、13 は段皿である。底部は回転糸切痕を残す。

折戸 53 号窯式～東山 72 号窯式に比定できる。

４．東山Ｇ－54 号窯（H－Ｇ－54 号窯）出土品（図４）

白瓷椀、皿類、不明器種出土しているが、灰釉が施釉されたものと無釉のものがある。14 は輪花椀、15 は椀類底部、16 は小椀ないし皿類、17 は大型の椀ないし鉢、18 は器種不明である。底部は回転糸切痕を残すものがほとんどであるが、一部回転ナデで仕上げられるものがある。

山茶椀窯（無釉化後の白瓷窯）を示す表記である G が窯名に含まれているが、灰釉の施釉が残る百代寺窯式に比定できると考えられる。東山 54 号窯の出土品である可能性も考え

たが、東山 54 号窯は古墳時代の須恵器窯とされているため、やはり当窯の出土品であろう。

5．東山 G－78 号窯（H－G－78 号窯）出土品（図４）

無釉の白瓷椀が出土している（19・20）底部は回転糸切痕を残す。高台にモミ痕は無い。

第３型式に比定できる。

6．東山 G－75 号窯（H－G－75 号窯）出土品（図４）

無釉の白瓷椀（21～23）、小椀（24）が出土している。底部は回転糸切痕を残す。高台はモミ痕が有るものと無いものがある。

第３型式～第４型式に比定できる。

7．東山 G－36 号窯（H－G－36 号窯）窯内出土品（図４）

無釉の白瓷椀類、鉢、瓶・壺類が出土している。25 は玉縁椀、26・27 は椀類底部、28 は小椀、29 は広口瓶、30 は鉢である。25・27 は底部に回転糸切痕を残すが、28 は回転ナデで仕上げられる。高台はモミ痕が有るものと無いものがある。

第３型式～第４型式に比定できる。

8．東山 G－50 号窯（H－G－50 号窯）出土品（図５）

無釉の白瓷椀類、三筋壺、不明器種が出土している。31・33 は椀、32 は玉縁椀、34 は椀類底部、35 は小椀、37・38 は三筋文を持つ不明器種、39 は三筋壺である。36 はヘラ磨きが施されていないが、焼成の雰囲気や調整の丁寧さ等から青瓷の素地の可能性もある。31・34 は底部に回転糸切痕を残すが、35 は回転ナデで仕上げられる。高台はモミ痕が有るものと無いものがある。

第３型式～第４型式に比定できる。なお、現在の窯跡分布一覧には本窯が掲載されておらず、具体的な所在地が定かでない。

9．東山 G－45 号窯（H－G－45 号窯）出土品（図５）

無釉の白瓷椀類、鉢が出土している。40～43 は椀、44・45 は小椀、46 は鉢である。底部は回転糸切痕を残すものと、回転ナデにより仕上げられるものがある。高台はモミ痕が有るものと無いものがある。

第３型式～第４型式に比定できる。

10. 東山 G－25 号窯（H－G－25 号窯）出土品（図５）

無釉の白瓷椀（47）、頸基部に突帯のめぐる壺（48）が出土している。椀底部は回転糸切痕を残し、高台にはモミ痕が無い。

第３型式に比定できる。

おわりに

以上、猿投窯東山地区に属するいくつかの窯について、出土資料の概要と時期比定について述べた。折戸 53 号窯式～百代寺窯式に属する窯跡は猿投窯内でも数が少なく、今回報告した東山 35・１・54 号窯出土品は、当該期の生産内容に関する情報を伝える貴重な資料である。また、無釉陶へ転換後の第 3 型式～第 4 型式については、特に猿投窯東山地区で爆発的な生産拡大が起こる時期だが、今回提示した各窯の資料も今後の研究において有効な分析資料になるものと考えている。

今後も引き続き、猿投窯をはじめとする須恵器・瓷器窯出土資料の基礎的調査を継続していく予定である。

［註］

（１）大西遼 2018「愛知県下の窯業遺跡出土資料に関する基礎的調査報告Ⅰ―猿投窯東山地区及び尾北窯篠岡地区出土須恵器・瓷器の考古学的調査―」『愛知県陶磁美術館　研究紀要』23　愛知県陶磁美術館。大西遼 2019「愛知県下の窯業遺跡出土資料に関する基礎的調査報告Ⅱ―猿投窯東山地区及び尾北窯出土須恵器・瓷器の考古学的調査」『愛知県陶磁美術館　研究紀要』24　愛知県陶磁美術館。

（２）愛知県史編さん委員会 2015『愛知県史』別編 窯業１　古代 猿投系　愛知県。愛知県史編さん委員会 2007『愛知県史』別編 窯業２　中世・近世 瀬戸系　愛知県。

（３）前掲註（２）愛知県史編さん委員会 2015。

（４）前掲註（３）、井上喜久男 2015「第 4 節　尾張の瓷器」『愛知県史　別編　窯業１　古代　猿投系』愛知県。

（５）前掲註（４）井上喜久男 2015

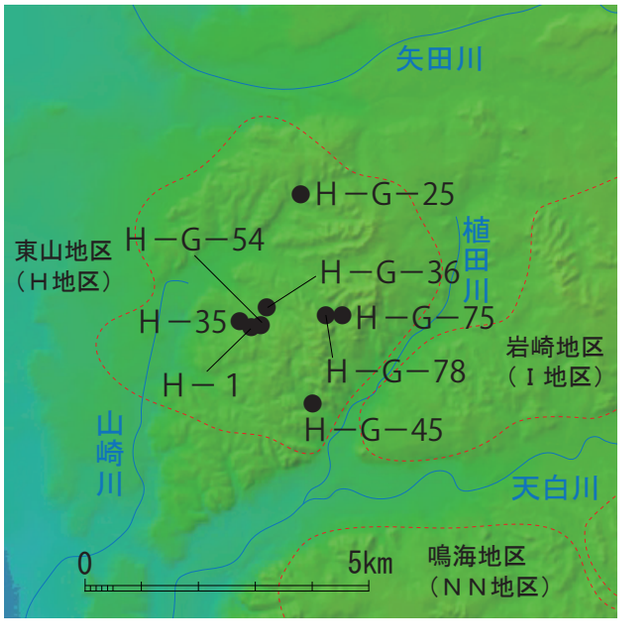


図１　本稿で扱う猿投窯東山地区、尾北窯の窯跡（地理院地図色別起伏図（国土地理院）、註２文献をもとに作成。）

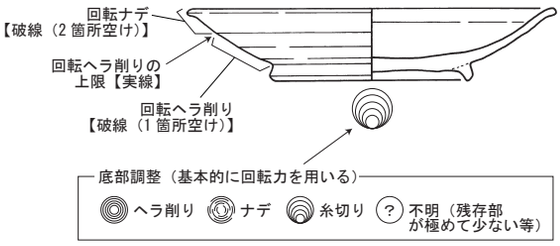


図２　本稿の実測図の表現

【東山 35 号窯】

【東山１号窯】

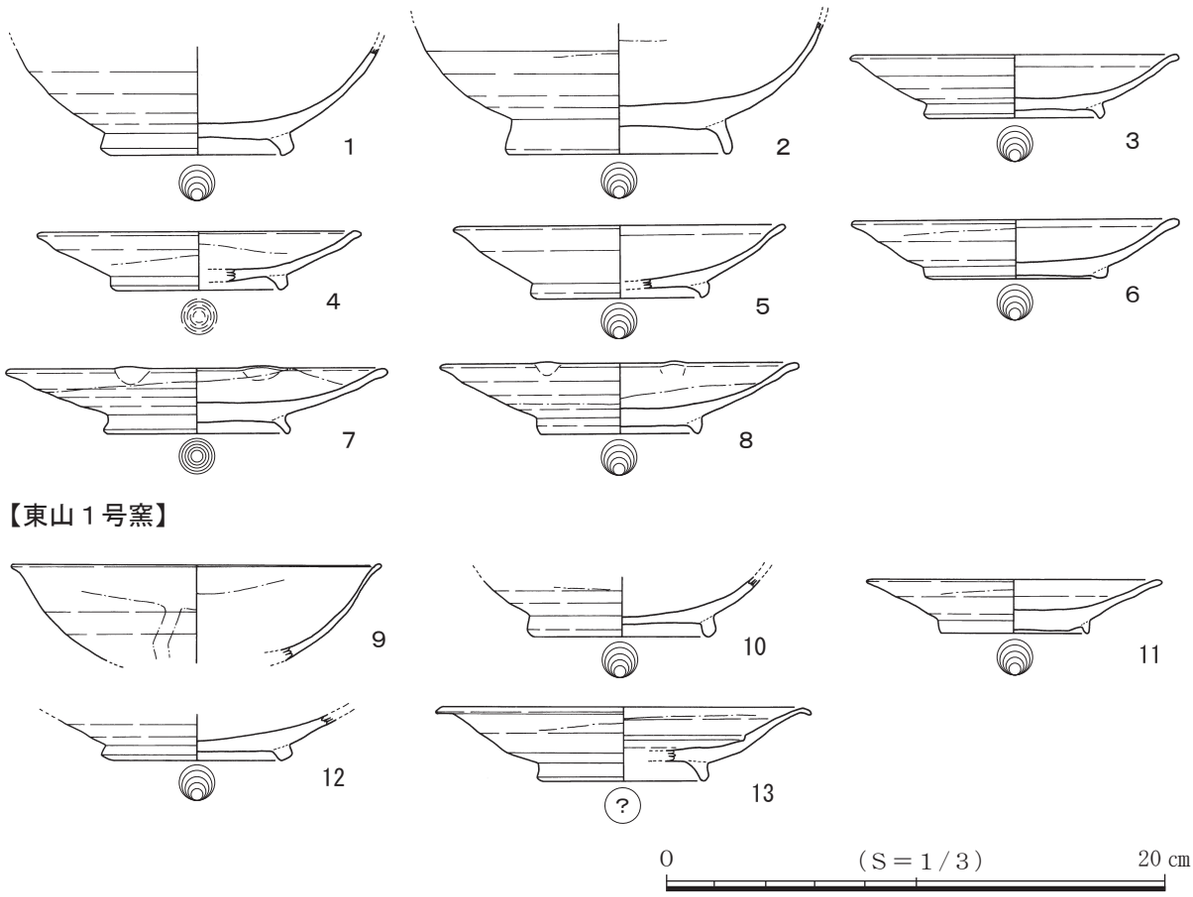
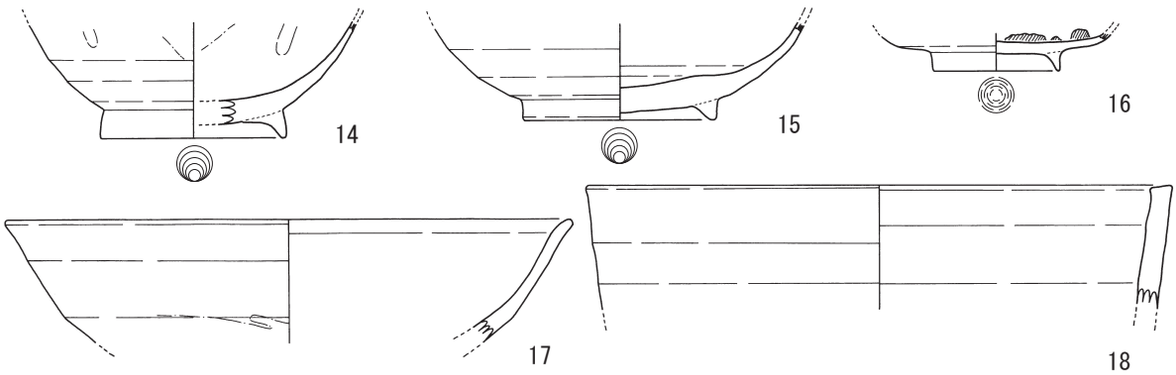
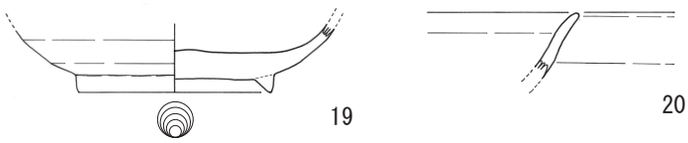


図３　猿投窯東山地区所在の白瓷窯出土品①

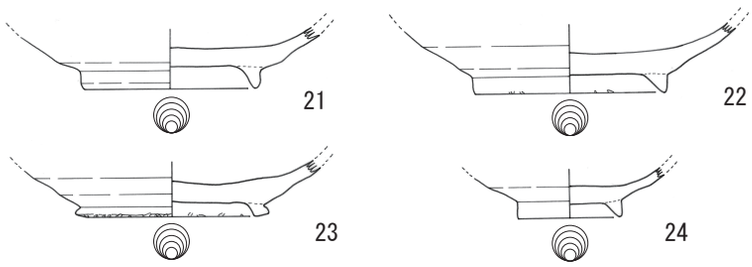
【東山Ｇ－54 号窯】



【東山Ｇ－78 号窯】



【東山Ｇ－75 号窯】



【東山Ｇ－36 号窯窯内】

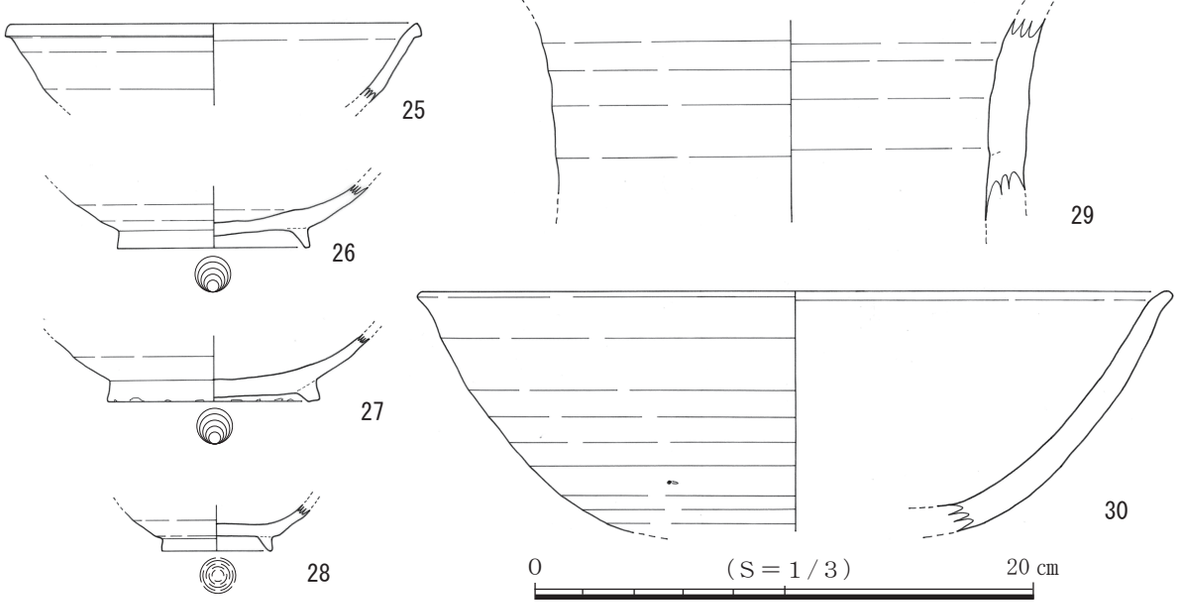
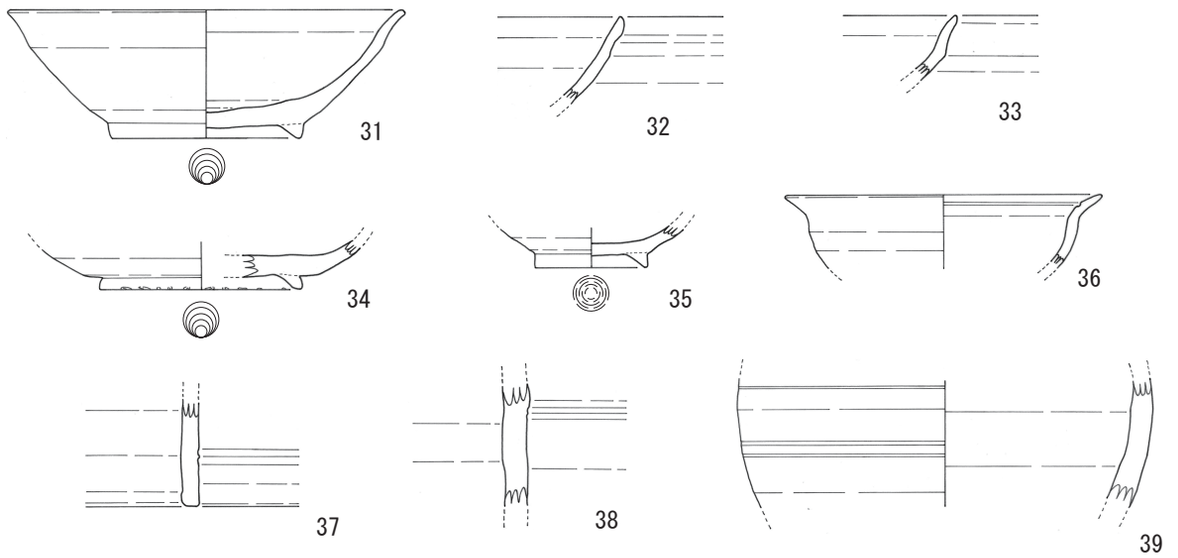
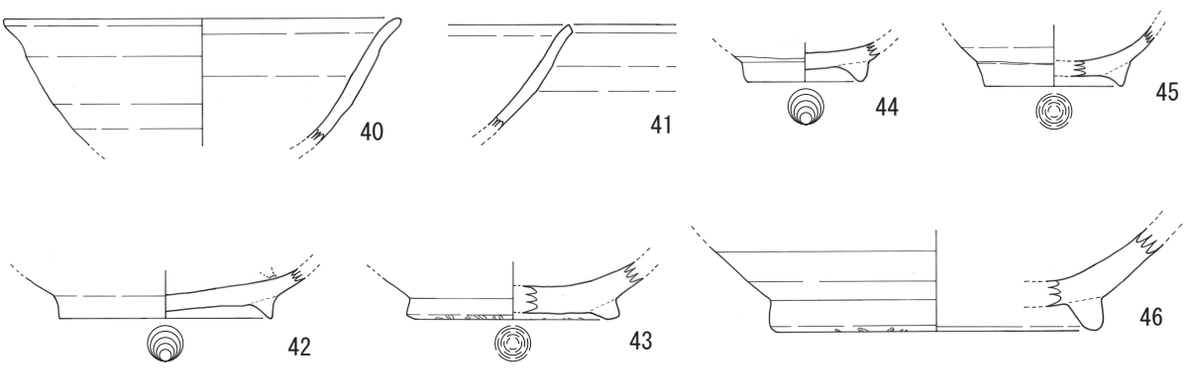


図４　猿投窯東山地区所在の白瓷窯出土品②

【東山Ｇ－50 号窯】



【東山Ｇ－45 号窯】



【東山Ｇ－25 号窯】

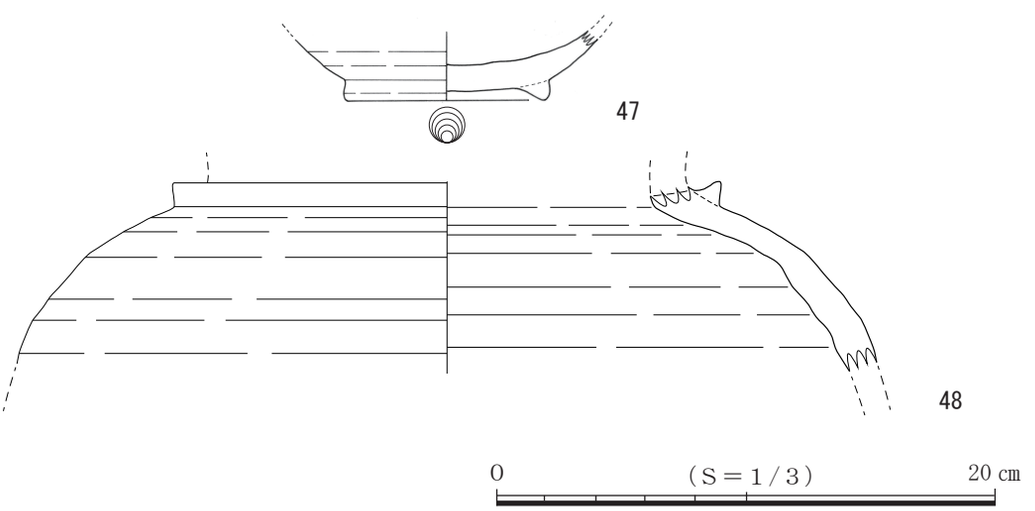


図５　猿投窯東山地区所在の白瓷窯出土品③